

OIST ピア・レビューの結果について (2015年7月)

<概要>

目的

- 現時点におけるOISTの教育、研究、運営全般に係る外部評価を実施。
- 「ベストプラクティス」として国際的に広く認められている手法(※)を採用。

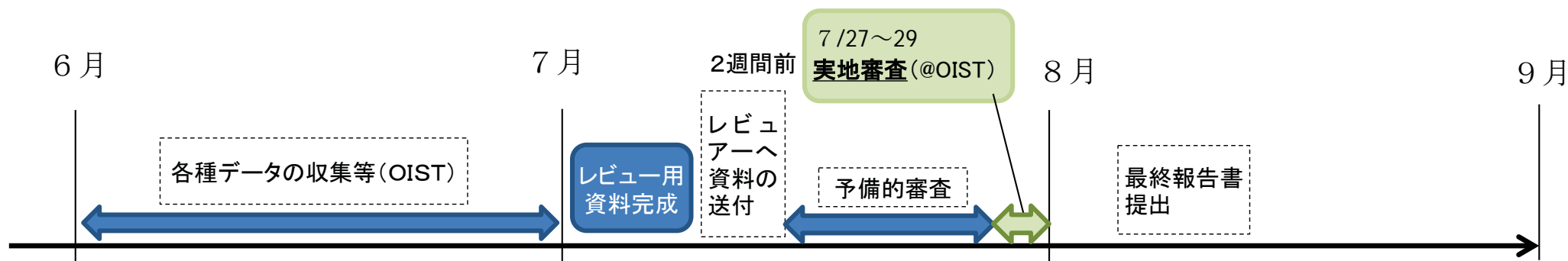
レビュアー

名前	性別	役職等	専門分野等
オラフ・キューブラー(議長)	男	元チューリッヒ工科大学(スイス)学長	理論物理学、生物イメージプロセッシング等
カール・ダイセロス	男	スタンフォード大学(米国)教授	生物工学、精神医学、行動科学
郷 通子	女	前お茶の水女子大学学長	生物物理学
川合 眞紀	女	東京大学大学院教授、理化学研究所理事長特別補佐	物性化学、表面科学
エルヴィン・ネーアー	男	元マックス・プランク生物物理学研究所(ドイツ)所長	ノーベル生理学・医学賞(1991年) (細胞内イオンチャンネル機能)
ハイム・ハラリ <Web参加>	男	前ワイツマン科学研究所(イスラエル)所長	理論物理学

プロセス

(※) 具体的手法

- いかなる種類の利益相反も回避された、世界水準の外部有識者により、独立した評価委員会を構成。
- 事前に背景情報資料を送付し、複数日に亘る現地審査を実施。
- 透明性を確保するため、評価基準・手続き、評価者氏名、最終報告書を公表。



(参考) レビュアーの略歴

(※詳細は、レビューファイル「2」参照。)

○ オラフ・キューブラー(議長) 1944年生まれ

1970年 ハイデルベルク大学 理論物理学 博士号取得
1979年 チューリッヒ工科大学(※)電気工学部教授
1996年 チューリッヒ工科大学副学長(研究担当)
1997年 チューリッヒ工科大学学長(~2005年)



※1855年に創設されたスイスの国立大学(世界大学ランキング(Times Higher Education)13位)。
欧州最上位の工科大学で、これまで21名のノーベル賞受賞者を輩出。

○ カール・ダイセロス 1971年生まれ

1998年 スタンフォード大学 神経科学 博士号取得
2004年 スタンフォード大学主任研究員
2005年 スタンフォード大学准教授(生物工学、精神医学、行動科学)
2012年 スタンフォード大学教授(生物工学、精神医学、行動科学)(~現在)



○ 郷 通子(ごう・みちこ) 1939年生まれ

1967年 名古屋大学 物理学 博士号取得
1989年 名古屋大学理学部教授
1996年 名古屋大学大学院理学研究科教授
東京大学分子細胞生物学研究所客員教授
2003年 長浜バイオ大学教授(バイオサイエンス学部長)
2005年 お茶の水女子大学学長
2009年 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事(非常勤)(~現在)



○ 川合 眞紀(かわい・まき) 1952年生まれ

1980年 東京大学 化学 博士号取得
1985年 理化学研究所研究員(触媒研究室)
1988年 東京工業大学工業材料研究所客員教授(寄付研究部門担当)
1991年 理化学研究所主任研究員(表面化学研究室)
2004年 東京大学大学院新領域創成科学研究科物質系専攻教授
2010年 独立行政法人理化学研究所理事
2015年 独立行政法人理化学研究所理事長特別補佐(~現在)



○ エルヴィン・ネーアー 1944年生まれ

1970年 ミュンヘン工科大学 物理学 博士号取得
1972年 マックスプランク生物物理化学研究所研究員
1975年 エール大学研究員
1983年 マックスプランク生物物理化学研究所所長
1991年 ノーベル生理学・医学賞受賞(細胞内に存在する単一イオンチャンネルの活性に関する発見)



○ ハイム・ハラリ 1940年生まれ

(最終学歴) ヘブライ大学 物理学 博士号取得
1967年 ワイツマン科学研究所准教授
1972年 ワイツマン科学研究所研究科長
1979年 イスラエル高等教育審議会 計画・予算委員長
1988年 ワイツマン科学研究所所長(~2001年)



(参考) 実地審査スケジュール

(※詳細は、レビューファイル「4」参照。)

○1日目(7/27)

9:25 - 9:40	学園と学園法について概要説明(学長等)
9:40 - 10:30	概要説明(学長)
10:45 - 11:45	学内視察
12:15 - 13:45	昼食(レビューアは2つのグループに分かれる) ・(マネジメント)大学幹部との懇談(キューブラー議長、郷委員) ・(教育・研究)大学院研究科長、教員担当学監等と懇談(ダイセロス委員、川合委員、ネーアー委員)
13:45 - 15:45	サイエンストーク(計4名)(各教員30分(説明20分、質疑応答10分)) ・ニコマック准教授(光・物質相互作用ユニット) ・エコノモ准教授(生物多様性・複雑性研究ユニット) ・フリード教授(ソフトマター数理ユニット) ・佐藤教授(マリンゲノミクスユニット)
16:15 - 17:45	総括(1日目)
17:45 - 18:40	レビューアから理事会、大学幹部への質疑

○2日目(7/28)

7:45 - 8:45	福祉サービスマネージャー等との朝食
8:45 - 10:00	主要設備視察
10:00 - 11:00	准教授との懇談(計7名) ・ダニ准教授(フェムト秒分光法ユニット) ・クスヌディノワ准教授(錯体化学・触媒ユニット) ・ミケエブ准教授(生態・進化学ユニット) ・御手洗准教授(海洋生態物理学ユニット) ・スティーブズ准教授(理論生物物理学ユニット) ・ウォルフ准教授(生体分子電子顕微鏡解析ユニット) ・ジャン准教授(生体模倣ソフトマターユニット)

○2日目(7/28)

11:00 - 12:15	<p>研究ユニット視察(計10ユニット)</p> <p><キューブラー議長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャクラボルティー 准教授(流体力学ユニット) ・コンスタンチノフ 准教授(量子ダイナミクスユニット) <p><ダイセロス委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クン 准教授(光学ニューロイメージングユニット) ・ウィッケンス 教授(神経生物学研究ユニット) <p><郷委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーワン 准教授(ナノ粒子技術研究ユニット) ・佐瀬 准教授(植物エピジェネティクスユニット) <p><川合委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェン 教授(マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット) ・チー 准教授(エネルギー材料と表面科学ユニット) <p><ネーアー委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋 教授(細胞分子シナプス機能ユニット) ・デシュッター 教授(計算脳科学ユニット)
12:15 - 13:15	サイエンス・テクニカルサポート職員との昼食
13:15 - 14:15	ポスドクとの懇談
14:15 - 15:15	学生との懇談
15:30 - 18:00	レビュアー打合せ
18:00 - 18:30	レビュアーと大学幹部打合せ(事実確認、情報要請等)

○3日目(7/29)

7:00 - 8:30	評価報告書作成
8:30 - 9:30	理事会、幹部との最終打合せ
9:30 - 11:00	評価報告書最終修正

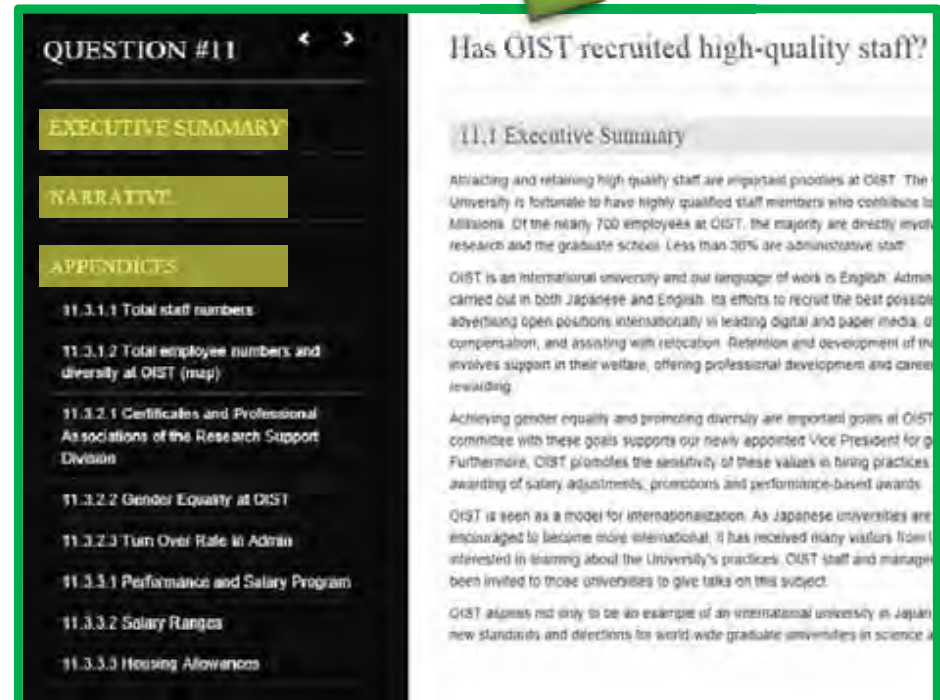
◎レビューに必要な資料をまとめたWebサイト(レビュー用参考資料)

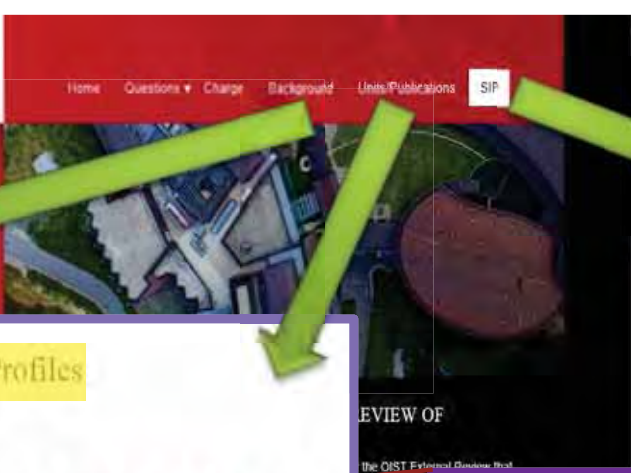
トップ
ページ



膨大なレビュー用参考資料をイントラネットに整理。パスワードを入れてWebから閲覧できるようにし、レビュアーは事前にこれらの資料を参照。

「Questions」では、16の質問項目ごとに、「Executive Summary」(要旨)、「Narrative」(説明)、「Appendices」(資料)に体系化して掲載。





Background

Framework Document II
July 2014
A 100-page report summarizes the progress made since the publication of the first Framework Document, takes stock of the current state of the university, and anticipates its continued growth and development.

Achievement 2014
July 2014
A 42-page 'Achievement 2014' takes stock of OIST in 2014 and attempts to seize the essential elements of vigor, enthusiasm, and competence that characterize the new Graduate University.

OIST Brochure
June 2015
A high-quality brochure which takes professional photos, integrates, and text to present a concise and beautiful overview of the graduate university in 42 pages, 155MB PDF.

OIST Faculty Booklet
2015
An introduction to OIST faculty members and research units.

OIST Graduate School Program Brochure
March 2014
A 20-page introduction to the graduate program at OIST.

Unit/Publication Profiles

Units List

Pinaki Chakraborty
Fluid Mechanics Unit
Orientation
Publications
Select Publications: Unit 1 | Pub 2

Fluid Mechanics Unit
Unit Created September 2011

Associate Professor
Pinaki Chakraborty

OIST Graduate University
External Peer Review:
Statistical Information Package

Section 1: Publication Statistics
Section 2: Education/Graduate School
Section 3: Budget
Section 4: Research Support
Section 5: Human Resources
Section 6: Intellectual Activity – A Vibrant, International Campus

Business Development/Tech. Transfer
Contribution to Okinawa (in preparation)
Future Growth

Chakraborty Unit Publications

Diy, S.S., Liu, C.-C., Liu, J.Y., Chen, L.L., Lipatnikov, A.N., Yang, S.L. 2015. Correlations of high-pressure lean methane and syngas turbulent burning velocities: Effects of turbulent Reynolds, Damköhler, and Karlovitz numbers. *Proceedings of the Combustion Institute* 55, 1509-1516.

Ichikawa, T., Gioia, G., Chakraborty, P. 2015. Effect of rainpower on hurricane intensity. *Geophysical Research Letters* 42, 3024-3029.

Cerbus, R.T., Goldburg, W.I. 2015. Predicting two-dimensional turbulence. *Physical Review E* 91.

Samalao, C.Z., Ng, H.C.H., Chakraborty, P., Gioia, G. 2014. Spectral analogues of the law of the wall, the defect law and the log law. *Journal of Fluid Mechanics* 757, 498-513.

Samanta, D., Ingemann, F., Cerbus, R., Tran, T., Goldburg, W.I., Chakraborty, P., Kallay, H. 2014. Scaling of Near-Wall Flows in Quasi-Two-Dimensional Turbulent Channels. *Physical Review Letters* 113, 1-5.

Peng, M.W., Shy, S., Shin, Y.W., Liu, C.-C., 2013. High pressure ignition kernel development and minimum ignituous energy measurements in different regimes of premixed turbulent combustion. *Combustion and Flame* 160, 1755-1765.

Cerbus, R.T., Goldburg, W.I. 2013. Intermittency in 2D soap film turbulence. *Physics of Fluids* 25.

Cerbus, R.T., Goldburg, W.I. 2013. Information content of turbulence. *Physical Review E* 88.

Kellay, H., Tran, T., Goldburg, W., Goldenfeld, N., Gioia, G., Chakraborty, P. 2012. Testing a missing spectral link in turbulence. *Physical Review Letters* 109, 1-5.

「Charge」では、ピアレビューにおける16項目の質問とレビュアーの責務について記載。

「Background」では、これまでOISTが作成した『枠組み文書Ⅱ』、『成果報告書2014』等を掲載。

「Unit/Publication Profiles」では、教員ごとにユニットの研究紹介、論文リスト、代表論文(本文)を掲載。

「SIP (Statistical Information Package)」では、機関別論文出版の状況を始めとする図表等を掲載。

これらはファイル17冊にまとめられ、A4紙で3,000 頁近くなる。



◎評価報告書の項目と事前に用意した16の質問項目との対応表

<16の質問項目>

<報告書>

1.1 近代的、最先端で世界最高水準の物理的なインフラが設計、建設、運営されているか。

1.2 ・世界最高水準の大学に必要な機能を果たすための運営管理体制が敷かれているか。
・高い能力を持った役員及びスタッフが採用されているか。

1.3 ・世界最高水準に見合う学術プログラムが確立できているか。
・優秀な教員を確保できているか。
・世界水準の研究成果を達成する軌道に乗っているか。
・自身の研究プログラムを確立する期間が十分にあった教員は質の高い研究成果を生み出しているか。

1.4 ・国際競争力のある研究者を育成するための博士課程プログラムが構築されているか。
・質の高い学生を採用できているか。

1.5 世界最高水準の研究プログラムをサポートする近代的で最先端のインフラと機器が整備されているか。

1.6 沖縄の持続的発展への寄与が期待される技術移転を実現するための主要な要件が確立されているか。

1.7 多国籍の研究コミュニティ及びその家族を採用・保持するために適切な福利厚生や社会的・文化的支援プログラムが確立されているか。

第2章
説得力のある将来計画が立てられているか。

1. 世界最高水準の大学、特に学際的な研究を増進しうる最適な環境の大学に必要な機能を果たすための効果的な組織体制が敷かれているか。
2. 実践的な世界最高水準の幹部指導者を採用できているか。
3. 世界中のトップクラスの大学に伍する適切な教育体制及び方針・手順が確立されているか。
4. 優秀な教員を採用できているか。
5. 世界最高水準の科学及び教育、ならびに技術移転をおこなうにあたり、効果的な物理的インフラ整備ができているか。
6. 教員率いる研究ユニット及び共有施設に実用的な最先端の研究設備が整っているか、また、研究支援が確立されているか。
7. 科学技術分野で、グローバルな視点に基づいた専門知識を提供し、学界及び民間部門でリーダーシップを発揮できるような人材を輩出するための博士課程プログラムが構築されているか。
8. 日本を含む世界中の優秀な学生にアプローチするアウトリーチ活動の手立ては確立しているか。
9. 世界最高水準の科学及び教育、ならびにアウトリーチ活動を実施するための効果的な運営面のインフラは確立されているか。
10. 知的財産を創出し、技術移転を進め、民間部門との関係を構築するための効果的な運営面のインフラは確立されているか。
11. 優秀な職員は採用できているか。
12. 採用活動や、真に国際的な大学コミュニティを維持していくといった課題に取り組むために必要な住居、福祉、文化的機能が整っているか。これらの迅速な実施を保証するために必要不可欠、または欠落している重要なニーズはあるか。
13. 沖縄で研究プログラムを立ち上げるための十分な時間が与えられた教員の研究ユニットに関して、高度な科学活動に関わっているか。
14. 学界とのグローバルな連携ネットワークが構築されているか。
15. 外部資金増加のための効果的な仕組みやサポート機能が構築されているか。
16. よく練られた先見性のある短期・長期計画が策定されているか。

評価結果【要旨】

◎パネルは、卓越性を測る全ての主要な基準において、傑出した(outstanding)成果がみられると評価する。

＜卓越性を測る基準＞

- 物理的キャンパスのインフラ整備
- 管理運営体制及びプロセス
- 学術プログラム(教育研究活動)及び教員の採用
- 博士課程
- 機器
- 研究成果に達するまでの経過
- 技術移転
- 福利厚生、社会的・文化的支援プログラム

◎こうした基準に照らすと、OISTは、世界で最も高い評価を受けているトップ25大学と肩を並べている。

OISTの功績を高く評価する事項

- 高い協調性、活力、持続性、効率性があり、極めて創造的な物理的キャンパスのインフラの設計・建設・実行・利用。
- 研究機関から世界トップレベルの大学院大学への移行に欠かせない、実効性の高い運営管理体制及びプロセスの構築に向けた多大なる努力。
- 随時文書化し、証拠を収集し、教員の意見を聞き、必要に応じて改定を行う方針を表明した管理運営プロセスの構築。
- 福利厚生、社会的・文化的支援プログラムの実施。

将来に関する包括的かつ中核的な提言

OIST管理運営側から提案のあった、今から10年後の2020年代半ばまでに種々の研究分野のバランスがとれた約100の傑出した研究ユニット及び数百名の学生規模の大学院を目指すという拡張計画を支持。10年後までに更なるOISTの拡充が審議・計画されるべき。

成長が十分計画され、秩序立ったものを確実にするための付属的提案

- 新たな建物の建設予算は必ず採用活動の段階に先立って確保されるべき。
- 2025年までに100研究ユニットのスペースを確保するための建設予算は、2020年までに全額が配分され、2023年までに全額が執行されるべき。
- OISTに対し複数年に亘る予算指標が提供されるよう何らかの調整が行われるべき。
- 継続的に更新される5年程度の正式な運営及び建設予算見込みをOISTのマネージメントが保持するべき。
- 特定の未使用資金については翌年度に繰り越されるべき。
- 収入源を多様化すべき。

現在の運営を最適なものにするための提案

- 大学院生及びポストドクにアカデミックティーチング経験機会を提供し、その機会増加に引き続き取り組むこと。
- 全ての共有機器・設備に対するアクセス・サポートを均一・高いレベルで提供できるよう継続的に取り組むこと。

評価結果(1.1)

近代的、最先端で世界最高水準の物理的なインフラが設計、建設、運営されているか。

評価結果の要点

- 高い協調性、活力、持続性、効率性があり、極めて創造的な物理的インフラが設計、建設、実行、利用されていることを高く評価。
- 建物や外構は周辺の自然環境と(困難を克服した上で)よく調和。
- 魚類及び齧歯(げっし)類を含む動物施設は良く管理されている。ゼブラフィッシュはOISTにとって特別な価値のある急速成長の実験システムであるが、飼育施設はほぼ空きがなく、齧歯類の飼育施設は70%が埋まっており、OISTの拡張に照らすと、新たな動物施設の必要性が高いと認識。
- 建物の配置について、子どもの保育施設が研究棟から徒歩数分圏内にあることや、育児・授乳室の設置等を肯定的に認識。これらはキャンパス拡充と共に拡充される必要性が高いと認識。
- これらを含めた他の多くの要素により、近代的かつ最先端で世界最高水準の物理的なインフラが達成されていることは明確。

● 質問項目5に対応 (Narrative P5)

- 参考データ P12
OISTキャンパス俯瞰図
- 参考データ P13
ラボスペースの概念図等
- 参考データ P32
宿舎及びCDC(チャイルド・デベロップメント・センター)の現況

評価結果(1.2)

- ・世界最高水準の大学に必要な機能を果たすための運営管理体制が敷かれているか。
- ・高い能力を持った役員及びスタッフが採用されているか。

評価結果の要点

- 世界トップレベルの大学院大学へ移行するにあたって欠かせない実効性の高い管理運営体制及びプロセスの構築に払った多大な努力を高く評価。
- ハンドブックを随時文書化し、証拠を収集し、教員の意見を聞き、必要に応じて改定を行う方針を表明した管理運営プロセスを構築したことを高く評価。

<パネルによって認定された事項>

- ・国際的な成功事例に倣い、「沖縄科学技術大学院大学学園法」等に詳述されており、理事会、評議員会、監事を中核としたガバナンス体制を構築。
- ・理事会は戦略的監督組織であり、運営管理業務を学長(理事長)、首席副学長に一任。教育学術機能は、研究担当ディーン、教員学監、研究科長の3名のディーンが管理運営。経営機能は、財務、人事、施設管理、男女共同参画、広報、アドミニストレイティブ・コンプライアンスの6名の副学長が担当。これらの役員・管理職員は、国際的経験を含む専門性と経験を有する。
- ・教員担当学監オフィスは、教員の管理運営の基準となる方針と原則を定めた教員ハンドブック及び教員の採用、テニユア、昇進、評価に必要な主要なプロセスについて定めたハンドブックを作成。

- 質問項目 1、2、3、9、11に対応

(Narrative P1、2、3、8、10)

- 参考データ P1
沖縄科学技術大学院大学学園組織図
- 参考データ P2
沖縄科学技術大学院大学学園理事
- 参考データ P3
沖縄科学技術大学院大学学園の運営体制
- 参考データ P4
OIST幹部一覧
- 参考データ P30
総職員数と多様性

評価結果(1.3)

- ・世界最高水準に見合う学術プログラムが確立できているか。
- ・優秀な教員を確保できているか。
- ・世界水準の研究成果を達成する軌道に乗っているか。
- ・自身の研究プログラムを確立する期間が十分にあった教員は質の高い研究成果を生み出しているか。

評価結果の要点

- 教員の採用及び評価に係る手順を検証し、世界最高水準に見合っていることを確認。
- 学術プログラム(教育研究活動)は、幅広い研究トピック及び教授の質を反映しており、世界の一流機関と伍するレベルに向かって順調に進展。

【参考】 レビューアが実際に訪問したラボ

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ・ クン 准教授 | 光学ニューロイメージングユニット |
| ・ ウィッケンス 教授 | 神経生物学研究ユニット |
| ・ ソーワン 准教授 | ナノ粒子技術研究ユニット |
| ・ 佐瀬 准教授 | 植物エピジェネティクスユニット |
| ・ シェン 教授 | マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット |
| ・ チー 准教授 | エネルギー材料と表面科学ユニット |
| ・ チャクラボルティー 准教授 | 流体力学ユニット |
| ・ コンスタンチノフ 准教授 | 量子ダイナミクスユニット |
| ・ 高橋 特別教授 | 細胞分子シナプス機能ユニット |
| ・ デシュッター 教授 | 計算脳科学ユニット |

● 質問項目 3、4、13、14 に対応

(Narrative P3、12、13)

- 参考データ P10
教員の採用時のプロセス
- 参考データ P11
(参考)教員の前職大学
- 参考データ P33
教員1人当たり出版物数の推移
(他大学との比較)
- 参考データ P34
OISTと他大学との論文統計比較
- 参考データ P35-37
(参考)OISTの分野別論文例
- 参考データ P38
(参考)学長が選んだOIST優秀論文リスト

評価結果(1.4)

- ・国際競争力のある研究者を育成するための博士課程プログラムが構築されているか。
- ・質の高い学生を採用できているか。

評価結果の要点

- 学生は国内トップの国立大学大学院の入学試験よりもはるかに高いレベルの競争を経て採用。
- OISTは優秀な学生を採用し、国際競争力のある研究者を育成するための博士課程プログラムを構築。
- パネルは11名の学生と面談し、全員が意欲的で傑出した学生であると所感。
- 学生は高校や大学、オープンキャンパスや地元へのアウトリーチ・イベント等でアカデミックティーチングの経験を積みたいとの要望がある。アカデミックティーチングの経験は学生が将来大学で学術的な職位に就く際に有効であり、パネルは大学院生及びポスドクにアカデミックティーチングの経験機会を提供し、その機会増加に引き続き取り組むことを提案。

- **質問項目 7、8、9、14に対応**
(Narrative P6、7、8、13)
- 参考データ P5
OISTの教育体制及び方針・手順
- 参考データ P6
OISTの入試状況、専攻分野
- 参考データ P7
OIST入学者の出身地域等
- 参考データ P8
OIST入学者の出身大学等
- 参考データ P9
OIST教員の外国人比率
- 参考データ P16-18
OISTのアウトリーチ活動(学生募集)等

評価結果(1.5)

世界最高水準の研究プログラムをサポートする近代的で最先端のインフラと機器が整備されているか。

評価結果の要点

- OISTの最も傑出した取組みの一つが、研究を支援する主要なインフラの整備。高いレベルの機器とスタッフによって実施され、これらのリソースは学際的な研究を促進するため、非常に優れた方法で共通・共有として利用。
- 傑出した例として、マイクロデバイスを製作するためのクリーンルームが挙げられる。マイクロ流体工学の研究をマイクロ流体デバイスに応用するため有効に活用。生物学的装置への応用や、表面科学の知識の新たなアプリケーションへの活用にも期待。
- スーパーコンピューター「SANGO」は、OISTの基礎研究を始め、様々なアプリケーションに幅広く活用。この成果は、ユーザーのニーズに細心の配慮を払っていることによる。
- 質量分析器やDNAシーケンシング設備等も使用頻度が高く、十分に維持管理。
- こうした共有機器は、研究室の立上げ時のみならず、新たな分野に研究を拡張する際にも大きな助けとなり、OISTがトップレベルの研究環境を維持するために非常に重要。
- 他のトップレベルの研究機関と同様、共通機器・設備に対する高いレベルのサポートとアクセスを維持するには継続的な努力が必要。

● 質問項目6に対応 (Narrative P5)

- 参考データ P14
OISTにおける共用研究機器の整備状況(例)
- 参考データ P15
OISTにおけるネットワーク(スパコン)の整備状況

評価結果(1.6)

沖縄の持続的発展への寄与が期待される技術移転を実現するための主要な要件が確立されているか。

評価結果の要点

- 技術移転に関するOISTの計画は、沖縄の持続的な経済発展に寄与する可能性が十分にあるものと認識。
- 教員による事業化を促進する具体的な取組みは、技術移転及び沖縄発展につながる(実際につながっている)。
- 地元設立されたベンチャー企業(沖縄プロテイントモグラフィ(株))は、沖縄の持続的な発展への寄与を示す良い例。

<パネルによって認定された事項>

- 2014年7月、首席副学長の下に技術移転及び事業開発業務を含む自立的発展担当オフィスを設置。
- OISTは教職員・学生に対して、知的財産の記録、開示、特許取得の指導を実施。
- 発明届書、MTA(Material Transfer Agreement:研究成果有体物提供契約)フォーム、受託研究契約及び共同研究契約の書式は作成済み。
- 既に50を超える特許申請が行われている。

● 質問項目10に対応 (Narrative P9)

- 参考データ P23
産学連携担当セクションの体制と業務内容
- 参考データ P24
民間パートナーシップの概要
- 参考データ P25
平成26年度の受託研究等(産学連携)
- 参考データ P26
発明開示件数、特許出願・保有件数の推移
- 参考データ P27
OISTの知財取得のフローチャート
- 参考データ P28
概念実証、起業家育成プログラム
- 参考データ P29
OIST研究からのスピンオフ事例

評価結果(1.7)

多国籍の研究コミュニティ及びその家族を採用・保持するために適切な福利厚生や社会的・文化的支援プログラムが確立されているか。

評価結果の要点

- OISTは新たに雇用される人材のための支援体制の構築に非常に注力。
- OISTスタッフが沖縄での新生活に順応するには、住居、健康面でのサポート、カウンセリング、保育施設、リソースセンターといった支援が必要不可欠であり、実際に提供。
- パネルは担当スタッフと会い、彼らの熱意と高い能力に感銘。
- こうしたリソースの設置、及び人材の配置は目を見張るものであり、高く評価。

● 質問項目 9、12に対応 (Narrative P8, 11)

- 参考データ P31
OISTにおける福利厚生施設等の整備状況
- 参考データ P32
宿舎及びCDC(チャイルド・ディベロップメント・センター)の現況

<パネルによって認定された事項>

- 「がんじゅう」というカウンセリングサービスを設け、教職員及び学生に指導や支援を提供。
- 生後2か月から6歳の子どもを対象としたチャイルド・ディベロップメント・センター(保育施設)を設置。アフタースクールプログラム(学童プログラム)及びホリデープログラムも提供。
- 医師と3名の看護師が常駐するクリニックを設置。
- 沖縄での生活に順応できるよう、生活全般における支援や助言を提供するリソースセンターを設置。

評価結果（第2章）

説得力のある将来計画が立てられているか。

評価結果の要点

- 世界の科学界に大きな影響をもたらすためには、質の高い充実したより専門的な分野が十分に含まれていることが必要。そのためには少なくとも約100の研究ユニット必要。一方で、成長速度が早すぎてもならず、年に5程度のユニットの成長が適切。
- 新たに付与されるテニユア全てについて、学長が主導し、教員で構成されるバランスの取れた組織（外部の研究者の参加も考慮）によって検討が行われるプロセスを通して最終的な承認が行われることを提案。
- OIST管理運営側から提案のあった、今から10年後の2020年代半ばまでに種々の研究分野のバランスがとれた100の傑出した研究ユニット及び数百名の学生規模の大学院を目指すという拡張計画を支持。
- 上記の拡張計画、及び急速に成長する若い組織の特別な状況に鑑み、次の5つの財務対策が必要
 - ・OISTの運営予算は、今後10年間ほぼ直線的に増加し、2025年には2015年の倍増となる必要（このような増額はかなり大きいですが、著しい成長か、これまでの投資を無駄にして凡庸に転じるかの選択肢。）。
 - ・新たな建物の建設予算は、採用活動に先立って確保される必要。
 - ・OISTに対し複数年に亘る予算指標が提供されるよう何らかの調整が行われる必要。
 - ・OISTの特定の未使用資金については、翌年度への繰り越しを可能にすることが重要。
 - ・慈善基金や国際競争的資金、産業界のスポンサー、また将来的には知的財産などを含む他の資金源を確保することで資金源を多様化するOISTの取組みを支持。

● 質問項目15、16に対応
(Narrative P14、15)

- 参考データ P42
外部資金獲得状況
- 参考データ P44-48
「枠組み文書Ⅱ」について